



～ 棚田を愛し、棚田を育む 未来の子どもたちのために～

発行：棚田LOVER s(ラバーズ)

(棚田の保全と活用、都市と農村交流、地域活性化を目的とする有志団体)



棚田LOVER'sメンバー
からのメッセージ



棚田LOVER's
理事 松尾龍哉

自然に触れる大切さを

忙しい毎日の中で、自然に触れることで癒しの効果があります。また、自分が世話した農産物が収穫できたときの喜びはひとしおです。趣味のレベルでもいいので、土いじりから始めてみませんか？

安心・安全な作物を食べよう

市場ではよく売れるために、多くの作物が農薬などの害虫対策の薬が使われています。しかし、本当に体にいいのは、農薬を使わずに作った作物です。ベランダ栽培でも、プランターでもいいので、自分の畑をつくって、そこで作物を栽培して、安心しておいしく食べられる作物を作りましょう。

農作業に参加して、 食べるまでの流れを知ろう

最近は温室栽培などで、一年中農作物が食べられます。しかし本当はその季節に合った、旬の作物を食べるのがいいのです。お米ではまず田んぼを整える、田植え、草引き、水の管理、収穫、その後も稲木干し、精米、そして我々の口に入ります。農家の方のがんばりや食のありがたさを再発見することができる棚田LOVER sを、これからもよろしくお願いします！

棚田LOVER sとは？

棚田LOVER sは、2007年5月に立ち上がった有志団体です。棚田の保全と活用、都市と農村交流、地域活性化を目的として、兵庫県市川町、神河町、香美町、姫路市、佐用町、神戸市で田植え(5月)・稲刈り(9月)・試食会等の活動をしています。

1月7日(木)19時～21時農楽カフェNEXT 参加者大募集

1月17日(土)、18日(日)田舎に住んでみないかい？

(山口の団体を招き市川町での農作業体験・交流会) (詳細は別紙チラシをご覧ください)

1月8日(金)19時～21時有機農業講座～みそ作りの話～

有機農業講座開催

～農・食・環境のつながりを感じませんか？～

7月10日(金)19時～21時に

「有機農業の養鶏 ～なぜ平飼い養鶏なのか？その魅力に迫る～」と題し、講師に広岡養鶏場 広岡史郎さんを招き、第3回目の有機農業講座を姫路にて行いました。

講座の報告

講師に広岡史郎さんを招き、7月10日に姫路ゆうき野菜の会にて第3回目の有機農業講座を行いました。聴講者は全10名となりました。お忙しい中、ご参集いただきありがとうございました。

広岡さんは福崎町にて平飼い養鶏をされています。最初に話題になったのが「卵の自給率」です。卵の自給率はほぼ100%だとお考えの人は多いでしょう。確かにそのほとんどが国産です。しかし、鶏の飼料にはトウモロコシや麦、大豆など輸入原料が使われています。このことを考慮すると、卵の自給率は10%になるともいわれます。飼料の自給率は今後考えていかなければならない問題です。そのなか広岡さんは、養鶏とともに農業を行うことで自給率の上昇に努めています。

卵の味の秘訣は餌の配合にあります。その黄金比は、動物性たんぱくと植物性たんぱくが2:1だそうです。その他、卵の殻にはミネラル類のバランスも欠かせないといわれます。一般的な理論をもとに最適な独自の配合を研究するような探究心と、知識や技術の蓄積と伝承がこれからの農業には大切だと、広岡さんはおっしゃいます。それぞれの課題や問題意識に果敢に取り組む姿勢と、そしてその成果を発信することが重要ではないかと私は考えます。

広岡農場 <http://sh2448.hirooka-fukusaki.jp/>

次回は、1月8日(金)19時～21時まで

みそ作りの魅力を語る～どうやってみそが出来るのか？～

ゲスト:橋本博和さん(橋屋)(お味噌をプレゼント)

さとっちの有機農業

オーガニックビジネスプランナーの鈴木さと子さん(さとっち)が有機農業の最近の話題や魅力を話します。

第2回:関東有機農業者サッカー大会 2010

～つなげようパス、広げよう有機農業の輪～

私は埼玉県・小川町に通いモデルタウン事業のお手伝いや、地域の若者や有機農業者、研修生とともに様々な活動に関わっています。そんな中、地域を超えた有機農業者の交流の機会があることを知りました。

「関東有機農業者サッカー大会 2010

～つなげようパス、広げよう有機農業の輪～」

新春と言えば、コレ！らしいです。ネーミングが笑えるでしょ...

しかも泊りがけで行われ、交流にも気合が入っています。

関西でもぜひ企画をされてみてはいかがでしょうか？

ゆくゆくは有機農業の全国大会も「集会」という知識の交流だけでなく、

本音も笑いも飛び交う魂の奮える場にしたいですね。



がっつり(本格的に)野菜・棚田も学び隊報告

農業を学び、自給自足の一步を



6月18日(水)に兵庫県市川町の牛尾農場、川上農園、棚田の見学会・作業を行いました。鶏小屋の見学やチェーン除草体験も合わせて行いました。次回は1月(水)、24日(日)に稲刈りや稲木干し、畑の見学を行いますので、ぜひご参加ください。



【なごみの棚田レシピ】 【さつまいものレモン煮】

材料 さつまいも、中2本白ワイン大さじ2、レモン汁大さじ2、レモン1/4個、甜菜糖シロップ(はちみつでも可)大さじ2 ~ お好みで

作り方 1.さつまいもは5ミリぐらいの輪切りにします。2.フライパンか平たいお鍋にさつまいもを並べ、甜菜糖シロップと白ワインと水をひたひたに入れて煮立てさせます。煮立ったら火を弱くし、蓋をする。3.レモンはいちょう切りにしておきます。4.さつまいもが柔らかくなってきたらレモン汁を加えます。5.最後にレモンのいちょう切りを入れてさっと火を通したら出来上がり

棚田TIMES 10月15日号引用 棚田むすびの会 会長 扇田久美子

牛尾さんの温故知新

有機農業を約30年間されている牛尾武博さんが今旬の野菜や作物等を紹介します。

何もかも勉強 ~ N君の稲作事始め ~



この春に兵庫県立大学の大学院を卒業したN君が、うちでの有機農業研修に通い始めて3ヶ月が過ぎた。そのN君はうちから車で数分の隣地区に、15アールの長年放置された休耕田を借りて自分の米作りも始めた。実はこの田は、隣村の有志が荒れ果てていく放置田を回復させたいとN君のために、多年草の雑草が生い茂った田に、重機を入れ多年草を撤去し稲作が可能なるまでに復田してくれたのだ。場合によって、田を荒らさないためには、ここまでお膳立てしてくれる時代で、それほど耕す人が少ない。N君は隣村の期待をも背負っている。

5月初旬に荒鋤きをした田に水を張り、1回目の代掻きを始めたが、初体験のトラクターでの代掻き。代掻きがうまく出来ないと私に電話があり、様子を見に行くと、田の3分の1しか水が無いではないか、これでは代掻きは無理。水を満タンにし、半日がかりで代掻きを終えた。

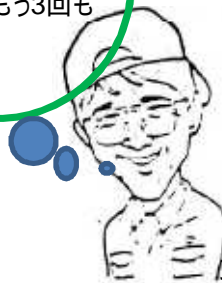
ところが次の朝、前日の夕方なみなみと水を張っていた田が干し上がってしまったのだ。この策(ざる)田では田植えは出来ないので、水が減らないよう、畦塗りを指導。畦塗りも初体験で鋤の選び方から教えることに。鋤簾(じょれん)という幅広鋤で泥を畦際に泥の壁を築くのだ。

N君は丸一日を費やし、泥まみれになって、荒削りでへたくそだが、200メートルのがっちりした厚い泥の畦を築いた。

6月10日に2回目の代掻きを終え、数日後にうちのポット田植え機で植えることが出来たが、これから有機稲作の正念場で、確実に生えてくる雑草をどう処理するか。ところが数年前に、素早く除草が出来る画期的な農法を編み出した先進的な農家があった。

その名も「チェーン除草」。4メートルほどのパイプにタイヤチェーンみたいなノレン状の鎖を取り付け、早苗の田を引っ張り回る。すると早苗は抜けないが、雑草は根から起き水面に浮いてくる仕組み。10アールが30分という短時間で回れるし、チェーンを引っ張る力も案外軽く、既存の除草方法と比べると格段に早く楽チンでも低コスト。しかし、この農法も微妙で引っ張る時期、回数をミスれば万全とは言いがたい。N君はもう3回も引っ張っているが、一番怖い雑草「コナギ」がびっしりと生えてきた箇所もある。

初体験の稲作にかかわるN君、熱意と体力は十分だが無知で、何もかも勉強という日々だ。



今日のゲスト



井上陽平さん (井上農園)

これからは、有機農業の時代だ！
本物は生き残る！

今回のゲストは井上陽平さんです。井上陽平さんは10年間有機農業を続けられ、思いのこもった野菜を多くの方に届けられています。7反で年間50種類もの野菜を作られています。農業で食べていけるのですか？と質問した時に「食べ物を作っているのだから食べていける」とお返事いただいたことが印象的で、非常に熱心で、多方面でご活躍されています。

<井上さんのキーワード> ・愛の戦士 ・歌うファーマー

8月15日、16日に市島町にて、真農楽ツアー（ノウガッツ）と題して、農作業体験・農園見学を行いました。参加者は約20名で、井上さんや井上さんの師匠の橋本さんの農場を見学しました。

<真農楽ツアー（ノウガッツ）参加者の感想>

- ・実際に農園を見ることによって、農業の大変な一面を学ぶことができたと思う
 - ・いろんな世代の人と、たくさん意見交換やお話しができて、自分にとってプラスになることばかりでした。
 - ・種まきや稲刈りなど本格的にしてみたかったです。でもいい経験でした。
 - ・期待していた以上の収穫！おもしろい人と友達になれてよかった。
 - ・仲間を持つことの大切さ、ありがたさを実感しました。
 - ・全く知らない農業の知識を習得でき、本当に有意義な時間をありがとうございました。
- 2010年も行う予定ですので、ぜひご参加ください。

あーちゃんとしのちゃんの棚田の植物

第2回マンジュシャゲ

東京大学で棚田の植物を研究している出口詩乃さん(しのちゃん)が植物の説明を、神戸芸術工科大学でデザインを勉強している中野綾さん(あーちゃん)がその植物をキャラクター化した思いを語ります。



緑色の田んぼに真っ赤なコントラストを作り出す花はなんとも美しい。葉っぱと花が同時に出ないという不思議な特徴にもまた神秘的なものを感じます。秋の彼岸の頃に咲くことから、ヒガンバナとも呼ばれます。日本の原風景を彩る代表的な植物です。



燃えるように花を広げる姿から、ちょっと気の強い努力家の三女として表しました。頭の柀の中にある白さぎはペットです。



棚田LOVER's通信へのご意見・ご連絡先：電話：080-1427-5377 メール：tanadalove@yahoo.co.jp
編集：棚田LOVER's(理事長：永菅裕一)
事務所：〒679 2326 兵庫県神崎郡市川町谷915 HP：<http://www.geocities.jp/tanadalove/>